

30-33

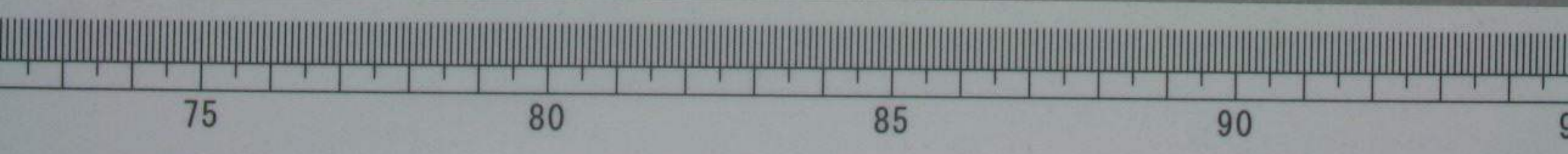
P. 30-33

か、彼の景  
露文章を  
いかに唐行  
したかといふ  
こと

(1)

彼の 意気は誠 に壯なり と云ふ可 く、	米玉資本 主義の 鉄壁	録的陳述 の ある本 もある。	を仔細に 書き、ま たもの い。	米玉のチ ヤリスム	くといふ のを、 折かッ の新譯を 読んで見 た。	正月の休 みに、 シーク リエアの ガラス 4エツ	年 賀状	か、友人 氏宛
----------------------------------	-------------------	--------------------------	---------------------------	--------------	--	--	---------	------------

四谷新街甲州屋製





( 2 )

を成すや、正にかくの47ぐま、まゝのかけり

と思つた。

比の未の中、~~...~~の信者かかろん子

出て、~~...~~の振、~~...~~の事か一寸書か

れらる。い、~~...~~の信物9次は日本より多い。薄

と信州の法向の麓に現れた鈴木三重吉の信

物の~~...~~は、~~...~~の人に知られらる。

~~...~~は、~~...~~の次は、僕は小石川

国司の刑事に預内した事がある。と、~~...~~の国

管内の某~~...~~跡の看板を摘した男かある

僕の名を記し

四谷新宿甲州屋製



~~た~~ ~~と~~ ~~い~~ ~~ふ~~ ~~の~~ ~~し~~ ~~あ~~ ~~る~~ ~~。~~ ~~美~~ ~~人~~ ~~あ~~ ~~ら~~ ~~う~~ ~~て~~ ~~す~~ ~~せ~~ ~~と~~ ~~。~~ ~~刑~~

事は ~~い~~ ~~い~~ ~~と~~ ~~。~~ と笑つてゐる。 何物か ~~い~~ ~~ふ~~ ~~の~~ ~~奴~~ ~~も~~ ~~。~~ ~~ま~~

か ~~く~~ ~~男~~ ~~振~~ ~~の~~ ~~い~~ ~~と~~ ~~男~~ ~~あ~~ ~~ら~~ ~~う~~ ~~て~~ ~~す~~ ~~。~~ ~~と~~ ~~も~~ ~~う~~ ~~一~~

人 ~~の~~ ~~刑~~ ~~事~~ ~~か~~ ~~僕~~ ~~が~~ ~~視~~ ~~て~~ ~~見~~ ~~る~~ ~~の~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~い~~ ~~ふ~~ ~~。~~ ~~僕~~ ~~は~~ ~~。~~

と ~~い~~ ~~ふ~~ ~~奴~~ ~~！~~ ~~と~~ ~~思~~ ~~つ~~ ~~た~~ ~~。~~ ~~一~~ ~~つ~~ ~~た~~ ~~。~~ ~~そ~~ ~~の~~ ~~昔~~ ~~話~~ ~~は~~ ~~。~~

は ~~。~~ ~~今~~ ~~年~~ ~~の~~ ~~年~~ ~~賀~~ ~~状~~ ~~の~~ ~~。~~ ~~何~~ ~~も~~ ~~の~~ ~~一~~ ~~枚~~ ~~交~~ ~~へ~~ ~~る~~

辰 ~~た~~ ~~か~~ ~~う~~ ~~。~~ ~~あ~~ ~~る~~ ~~。~~ ~~五~~ ~~年~~ ~~七~~ ~~。~~ ~~福~~ ~~同~~ ~~の~~ ~~方~~ ~~か~~ ~~う~~ ~~と~~ ~~い~~ ~~ふ~~

あ ~~の~~ ~~か~~ ~~来~~ ~~ら~~ ~~か~~ ~~。~~ ~~今~~ ~~年~~ ~~の~~ ~~は~~ ~~三~~ ~~十~~ ~~前~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~い~~ ~~ふ~~ ~~。~~ ~~何~~

軍 ~~事~~ ~~の~~ ~~平~~ ~~の~~ ~~ハ~~ ~~カ~~ ~~キ~~ ~~。~~ ~~あ~~ ~~ら~~ ~~う~~ ~~。~~ ~~書~~ ~~き~~ ~~添~~ ~~え~~ ~~の~~ ~~水~~ ~~は~~

四谷新宿甲州屋製



( 4 )

五六行かとうもあかしい。

~~物は、先生、~~  
~~ある、~~  
ある

~~かこちうへ~~  
かこちうへ

いす。 7 X X X X の 中 の 貞 子

~~かこちうへ~~  
かこちうへ

ひさい

仰存 7 左 事 と 言 ね ませ せん ー と

そん 事 が 書 け ら れ ぬ 事 だ。

X X X X と いう の は

~~僕~~ 僕 が 五 十 年 前 有 新 事

に 書 い ち ぶ 院 の 題 名 2 あり

貞 子 と いう の は

その 女 主人 公 の 名 2 あり

その 女 主人

人 公 を 僕 は 34 前 の 生 れ と し て 書 き 7 X X X

X の 冒 頭 一 節 に は ~~僕~~ 僕 は 34 前 ~~と~~ 景 に とう だ。

四谷新宿甲州屋製



( 5 )

そして、  
そんを書き、  
その前に  
僕が  
34  
前に行つた

見ら事は  
事毎し  
か  
その時は  
と  
女

の人にも  
會は  
り  
又、  
その時は  
ま

又々々々  
と  
又、  
その名も  
考へ

何の事か  
と。  
そして  
それ以後  
僕は一  
つ  
も

前に行つ  
た  
復合  
それ以後  
34  
前へ

行つた  
何人か  
女の  
會  
た  
として  
も  
自分の

作  
事  
流し  
君は  
僕が  
34  
中の  
程

に  
似  
る  
事  
か  
る

その  
か?



( 6 )

僕に 今ハかキと見ると。 笑矣し。 肉也

した。 か。 まあいゝと思つた。 かくして今から

杖と書越すほど。 今ハ悪印が「思ひ出せし

を予へて取たわけ。 今ハ何のたゝり？ 僕

杖のたゝり。 杖と書いし。 今ハ何のたゝり？ 杖

今ハ何のたゝり？

杖のたゝり。 今ハ何のたゝり？

今ハ何のたゝり？

今ハ何のたゝり？ 杖のたゝり

笑つゝゝゝゝ

何のたゝり。 今ハ何のたゝり？ 折角お目出と云ふ



(7)

いつまで  
一ヶ月

つとまわりのらからし。

僕も又いつか返しの原状を書いた。香

壇も北の小部令に賢思く昨明の

美しい面影と描き

年輪はもともとのまわりの

文章十年。まことと背みし

女も僕(三)と相手は出題日る悪物知ると書

いつかあつたの序 P70 トン・シン クレエ P1

僕も シンク レエ P の藝術 には ぼろぼろ

心も 弱眼も しろい のちか しかし 油は止し

四谷新宿甲州屋製



